

美濃陶磁歴史館だより



連続 うちんたあのお宝、なんやね？

コラム 第27回 乙塚古墳の副葬品

謎の鳥に込められた願い

土岐市が誇る国史跡「乙塚古墳」を造営した豪族は、東美濃地域の支配者でした。当然のことながら、数多のきらびやかな副葬品とともに葬られたことでしょう。

しかし、発掘調査では宝飾品などのきらびやかで豪華な副葬品は何も見つかりませんでした。須恵器や土師器といった器類、武器・馬具と思われる鉄製品の小さな破片がわずかに出土したのみでした。

盗掘によって失われたものもあつたと思いますが、江戸時代に石室内部が近隣の陶工たちによって工房や倉庫として再利用されたため、副葬品が残っていたとしても処分されてしまったと考えられています。第6次調査時（平成27年）には、石室前庭部脇の墳丘から、石室から出されて捨てられたと考えられる須恵器の小破片がまとまって見つかった

ます。その際に見つかった須恵器はほとんどが小さな破片でしたが、とても珍しい特別なものが含まれていました。鳥形つまみが付いた「鳥鈕蓋」です。古墳へ飛鳥時代に東海地方でのみ使われた特殊な須恵器で、現在までに発見された数は全38点しかありません。

乙塚古墳からは2点出土したのですが、この鳥が謎で、種類が分からないのです。土岐の地名の由来になったともいわれるトキでしょうか、あるいはカモなどの水鳥でしょうか。タカ、ガラス、小鳥の類の可能性もあるかもしれません。一般的には空を飛び遠くへ渡っていく鳥に死者の旅立ちを託したものと考えられますが、鳥の種類によって込められた願いはきつと異なっていたはずで、乙塚古墳の主はこの謎の鳥にどのような願いを託したのでしょうか。



ワタシは誰？



鳥鈕蓋



墳丘から出土した鳥鈕蓋などの須恵器片

イベントのご案内

美濃陶磁歴史館
(☎ 1245)

✉ toki_museum@
toki-bunka.or.jp

講演会『乙塚古墳とその時代』 4月16日(日) 午後1時30分～3時
講師：早川万年氏（元岐阜大学教授） 場所：市文化プラザ3階・視聴覚室
定員：70人（参加費無料） 申込：電話またはメール
※メールには参加者全員の氏名、代表者の電話番号、居住市町村を記入してください。

古代体験教室『乙塚古墳探訪と勾玉づくり』 5月5日(金・祝) 午後1時～4時
対象：小学1年～中学3年生（小1～3年生は保護者同伴）
場所：美濃陶磁歴史館 定員：20人（参加費400円）
申込：4月15日(土)までにメールで申し込みください。※応募者多数の場合は抽選
※応募は1組につき2人まで、同伴保護者は1人のみ可（入館料200円）